

SPEX 社製 自動アルカリ融解装置

自動融解装置 X-300、X-600

セラミックス、貴金属試料など、酸分解で容易な溶解が難しい試料や、融点が高く酸分解で完全溶解が難しい樹脂試料に対しては融解法が有効です。融解処理には、バーナーとルツボを利用した直接過熱、電気加熱炉を用いた加熱処理法があります。自動融解装置 X-300、X-600 は、これまでマニュアル操作で行っていた操作を自動化するのに便利なシステムです。XRF 分析用ガラスビードの作成、ICP-AES、ICP-MS 分析用に融解後酸溶液に溶解する処理に便利です。

1 検体処理用



X-300

6 検体同時処理用



X-600



ガラスビード作製装置は、蛍光 X 線分析 (XRF) の前処理としてガラスビードを作製する装置です。サンプル、融剤、剥離剤を白金るつぼ内で加熱しながら攪拌させ、脱気後に白金モールド (鋳型) へ流し込むことで表面状態の良い均質なガラスビードを作製することができます。この作製方法は白金るつぼの損傷を抑え、白金るつぼを長持ちさせるメリットがあります。

X-300 は 1 個ずつ、X-600 は同時に 6 個のガラスビードを作製します。溶融方式は電気炉式を採用しており、電源と排気以外のユーティリティを必要としません。ガスや冷却水を使用するタイプに比べ安全かつ低コストで使用できます。X-300、X-600 とともに酸を満たした PTFE ビーカーに溶融したサンプルを直接注ぐことで、難溶解性サンプルの ICP 分析前処理装置としても使用できます。



高純度融剤

消耗品 (白金製品、融剤など)

モールドは直径 30 ~ 40 mm を用意しており、様々な蛍光 X 線分析装置に対応できます。Katanax 社のるつぼ / モールドともに国内での改鑄サービスを提供している他、JIS 規格の白金るつぼの改鑄も承っています。融剤 (Flux)、剥離剤 (NWA) は、Katanax 社オリジナルの粒子が細かく溶融中のロスが少ない高グレード品をラインアップしています。純度は標準仕様の純度 99.99 %、高純度の 99.998 % の 2 種類があります。